

## PMR 資格試験への挑戦 4

### P2M における実践力の確認としての PMR 資格試験

松永 博充

#### ■ 受験動機

私はプラントメーカーのプロジェクト管理者として、10年以上プロジェクトマネジメントに従事してきました。また、プロジェクトマネジメント関連資格として、PMSとPMPを取得し、私自身のプロジェクトマネジメントの向上を図ってきました。

一方で、長くプロジェクト管理をしていることもあり、私自身が培ってきたプロジェクトマネジメントが自分本位になっているのではないかとの危機感があり、今回、PMR 資格試験を通して、私自身の振り返りと気づきの機会として受験をしました。

#### ■ 受験の感想

PMR 資格試験では、P2M 実践に向けての指導を受けられる機会でしたので、私自身の振り返りと気づきがあり、有意義な時間を過ごすことができました。

受験に向けた準備は、「PMR 養成研修」に参加し、PMR 資格試験内容と P2M における実践力の能力要素（10のタクソノミー）を確認し、試験のための準備ではなく、日々の業務で意識して実践してきました。

そのため、一次試験・二次試験とも、与えられた課題に対しては P2M を実践することができたと考えます。

なお、以下の3点は意識して対応しないと難しいと感じました。

- ①業務に関わらないテーマを与えられた場合に備えて、普段から時事ニュースを確認し、自分なりの意見・考えを持つこと。
- ②二次試験は、筆記試験とグループワークを組み合わせるため、全体を意識して一貫性のある回答ができるように心掛けること。
- ③グループワークでは、多様なメンバーで実施することもあり、個人主観ではなく、チームとしての最適なバランスで対応することを意識すること。

#### ■ PMR としての展望

2020年に発生したコロナによるパンデミックのように、今までに経験したことがない環境変化に対する解決アプローチの重要性がビジネスマンには必須と考えています。

P2M 体系は、個々のプロジェクトに対するマネジメントだけでなく、大型化・複雑化への対応に必要な全体統合と部分のマネジメントの両方をプログラムマネジメント体系で対応するアプローチとして有効と考えています。

だからこそ、PMR の立場として、プログラムマネジメントの実践例を示すことで、プログラムマネジメント認知度と P2M 資格ホルダー率の向上に寄与したいと考えます。

最後に、PMR の更なる上位資格である、PMA にもチャレンジし、第1号の合格者に向けて高度な P2M 実践力が身につくように日々実践していきます。



【プロフィール】 松永 博充（まつなが ひろみつ）

プラントメーカーのプロジェクト管理者として、多種多様なプロジェクトに従事し、チームリーダーの経験を有する。

現在は、新しい規制に適合するためのシステム導入に向けたプロジェクト管理者として、プロジェクトメンバーと共に日々奮闘中。